

ECO REPORT (環境報告書) 2003 発行について

2003年8月29日
日本特殊陶業株式会社
取締役社長 羽賀 征治

当社は、1974年に環境関連部門を設置し、法律に基づく各種公害の防止と予防に対し組織的に取り組んで参りました。また、1980年に省エネ専門委員会を設置し、省エネルギー活動を推進したのを始め、廃棄物削減活動、環境負荷物質の使用量削減など地球環境保全全体に対する管理体制を拡充し、地道に、かつ継続的に対応を進めてきています。一企業として、これらの環境保全活動を通して、資源の効率的な使用と循環を進めることにより「持続可能な社会」の実現に向け、一役を担えたら幸いだと思っております。

2002年度の環境保全活動の内容、成果と直近の活動について、当社4回目の環境報告書として「ECO REPORT 2003」にまとめ発行しましたので、下記の通りお知らせします。

記

1. ECO REPORT 2003 の発行目的

利害関係者 [ステークホルダー] への環境情報開示
当社が利害関係者と位置付ける方々

株主、投資家、マスコミ関係者、地域住民、行政機関、NGO、取引先、消費者、
研究機関、当社内各部署（従業員）etc
社内啓蒙、教育資料の一部として利用する

2. ECO REPORT 2003 の主な内容（詳細は別紙をご参照ください。）

環境マネジメントシステムのグループ統合認証を展開
塩素系有機溶剤の使用量を全社で廃止
ゼロエミッションの達成（2002年9月宮之城工場、2003年5月本社/本社工場、
小牧工場にて達成）
環境会計（単独）の集計結果

3. ECO REPORT 2003 の特徴

カエルと自然をイメージしたデザインをもとに、図や写真を取り入れ見易い構成としました。“カエル”には省みるや変えることなどの願望を込めています。

紙面を増加するとともに、工場ごとの報告書として本誌とは別にサイトレポートを作成しました。

情報の多角化を図り、内容は職場での活動事例の紹介を含め、より詳細に記述しました。

< 主な記述新規項目 >

・マテリアルバランス	・行動計画（グループ）	・リスク管理
・エコ・エフィシェンシー	・ロジスティクス	・環境に配慮した製品開発
・エコプロダクツ	・LCA	・雇用及び機会均等

ステークホルダーの代表者から本レポートに対するメッセージを頂き掲載しました。

4. ECO REPORT 2003 の配布時期

9月1日以降順次配布
当社ホームページ上にも9月中旬掲載予定
英語版冊子は、9月中旬発行予定

以上

（お問い合わせ先）

総務部広報課 TEL：052-872-5896
環境安全部 TEL：052-872-5980

環境マネジメントシステムのグループ統合認証を 2003 年度に達成

国内グループ会社において、共通の環境方針、環境マニュアル・規格のもと、環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001 統合認証を推進しています。主要関係会社のうち、2002 年度までに 7 社が認証取得を行い、2003 年度には全グループによる統合認証を目指します。グループとしての主な環境保全目標は、CO₂ 排出量を前年度比 1 % 以上削減、2004 年度までに塩素系有機溶剤の全廃、2006 年度までにゼロエミッションを達成するというものです。

2002 年度の環境保全実績の主な成果

- 1) 有害大気汚染物質の塩素系有機溶剤の使用を全廃
主に素地調合の分散剤や各種洗浄用として使用していましたが塩素系有機溶剤の使用において、代替溶媒技術を確立し全廃しました。
- 2) ゼロエミッションを達成
分別を徹底することでリユース・リサイクル化を積極的に推進した結果、2002 年 9 月宮之城工場において廃棄物総排出量に対する有効利用率（リユース及びリサイクル）が 98% を超えゼロエミッションを達成し、2002 年度の全社（4 工場）における有効利用率は 96% となりました。尚、ゼロエミッションは、本社/本社工場、小牧工場においても 2003 年 5 月に達成し、残る伊勢工場においても 2003 年度中に達成する予定です。
- 3) 環境会計（単独）の経済効果は 5 億 1700 万円
国のガイドラインに基づき算出した結果は、環境コストが 77 億 8900 万円（内、投資は 7 億 8500 万円、経費は 70 億 400 万円）となり、センサー関係の研究開発費が多くを占めました。
環境保全の経済効果は 5 億 1700 万円で、職場の改善・合理化や省エネ、3 R 推進の努力による費用削減効果が大きくなっています。